

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を続けます。

一般質問を継続いたします。

次に、3番上田議員の質問を許可いたします。御答弁を求めます。3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、3番上田雄一の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

今回も私、武雄市の今後の可能性についてということで通告をさせていただいております。大きい項目としてはIT行政についてということで、ITと言いましても、何となくわかっているけどという方もここにもたくさんいらっしゃるんじゃないかなと思います。私もその1人であることは間違いないところではありますが、そのIT、訳するとインフォメーションテクノロジーというふうになりまして、日本語で言うと情報技術というところでございます。

ICTという方もいらっしゃいますけれども、ICTとなると、インフォメーションコミュニケーションテクノロジーと。このコミュニケーション、つまり通信ですね。通信を強調した言い方でありまして、とらえ方としては、ITとICT、大した違いはないとおっしゃる方もいらっしゃいますし、通信のほうに重きを置いた分ということで、ICTとはまた別だというような見解を持たれている方もいらっしゃいます。私もはっきり言いまして、どっちがどっちなのかよくわかりません。

ただ、2000年の流行語大賞にまでなりまして、IT革命という言葉が流行語大賞になりまして、もう早いもので10年余りたっております。現在の社会は急速なこのITの発達が進んでおるわけございまして、何かいい資料がないかなと思ひまして、私も探していたところですけどね、こういう感じで、（パネルを示す）ここがIT革命があったというような、2000年ですね。IT革命が流行語になったという2000年、そこからもうこのグラフ、もういろんなグラフがあります。一番見やすいのが何かかなと思って、結局、これを使わせていただいておりますけど、これだけですね、この情報技術の発達というのは社会において大きな影響を及ぼしておるわけでございます。

そういう中で、武雄市も今さまざまなITに関する施策、取り組みいろいろあります。方向性としては、私は間違っていないというようなところでありまして、今後ますます発展することが予想されるこのIT社会においては、さまざまな対策が必要になってくるものだと思っております。

それでは、このITを活用した部分からずっと入りたいと思ひますけれども、まず、教育に関係する項目に入りたいと思ひます。

教育に関する項目に入る前に、昨日、杉原議員の御質問だったかと思ひます。土曜学習会、

また、英語スペシャルの質問等がありました。佐賀県の総合計画の中では、26年度までに土曜日の活用というようところがちょっと話が出ておりましたけれども、私自身の考えはですね、土曜日、土・日週休2日制度の見直しになっていくとちょっとどうかなというところがあります。今子どももですね、私も青年会議所等でいろいろ事業を企画したりとか、ほかのこともいろいろあります。地区の子どもクラブとかですね。そういうのがたくさんあります。子どもたちも結構忙しいんですよ。

そういう中で、きのう質問を聞いていて思ったのは、土・日、土曜日を、市長も民間活力を導入して考えていかんばいかんとやなかろうかと、その中で、もう本当に学校の先生は今大変だと、忙しいというような答弁があっていたかと思います。私もその流れは十分承知しているところでありまして、今学校の先生も本当に毎日毎日大変で頑張っていると思います。

先日ですね、私も福祉文教委員会の行政視察にお伺いしたときに、どっちやったかな、本庄市だったですかね、秩父市やったかな、どっちやったかな。すみません、ちょっとはつきりどっちやったか、ころっと今忘れてしまいましたけど、2学期制を3学期制に戻されて、ただ、その授業日数の確保のために、サマーバケーションとかウインターバケーション、要は夏休み、冬休み、この辺の日数を縮小して授業日数を確保されていると、そのやり方というのは、聞いていて本当に参考になるなと思っておりまして、きのうの答弁の中では、市長もいろいろ今後考えていかんばいかんやろうというような答弁がありましたので、ぜひですね、私は夏休みの有効な使い方というのを、もちろん今学校でも夏休みもいろんな補習授業をやってもらったりとか、結構一生懸命、学校でも取り組んでもらっているんですけど、そこら辺をうまく考えていけば、非常に子どもたちにとってもまた有効な時間の使い方になるんじゃないかなと思います。ですので、そこをぜひ、私は聞いていてそう思ったものですから、ちょっと参考にしていただければなと思います。

それでは、本題に入ります。

まず、このITを活用する上で、子どもたちに対する学校教育についての現状、武雄市においてITを活用した教育について質問させていただきたいと思います。

もう皆さん御存じのとおり、佐賀県武雄市にあります武雄青陵中学校は、総務省と文部科学省が公募したフューチャースクール推進事業と学びのイノベーション事業の全国8校の実証研究校に選ばれました。

その選定を受け、無線LANや電子黒板、タブレット型パソコンを整備し、生徒同士の教え合いや学び合いによる共同学習を充実させるというような取り組みをなされようとしております。

このように、ITを活用した教育としては、代表的なものとして、ITの環境を整備した上でタブレット型パソコン、ここでいう、わかりやすく言えばiPad（アイパッド）だと思い

ます。i P a d（アイパッド）の導入とか、電子黒板、スマートボードの導入があると思います。

授業におけるIT活用もさることながら、情報リテラシーと申しますか、その情報を活用する力、使いこなす力を養うことも学校教育で求められているのかなと思うところでもあります。

情報リテラシー能力を保持する人というのは、必要とされる情報を効果的、効率的に探し出し、それを精査し、そして、使うことができる人というふうに定義されております。

将来的には、そういう教育が必要だと思っておりますが、ただ、その入り口として、ITに親しむことがやはり必要ではないかと、その一つのツールとしてスマートボードがあると思います。

この辺の現在の整備状況をまずお伺いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ICT教育についてですが、これを大きく分けまして3つのことで対応しております。1つは、やっぱり子どもたちが存分に情報機器活用できるという力、これもまた非常に重要な部分で、これはパソコン等が入ってきた時点からいろいろやってきたことであります。2つ目は、授業をわかりやすくする、学力をつけると、そういう意味でわかりやすく深まる授業に生かすという面が今お尋ねのところかと思えます。それから、3つ目は、先生方が忙しいということで、学校の校務を簡単にできる方法はないかということで、校務の効率化ということで、その面での情報機器の活用と、ICT教育は今3つの面で進んでいるというふうに思うわけです。

その中で、特に3つ目の校務のことで言いますと、学校の情報を、情報公開をパソコン等でやっていく。あるいは、実際に皆さん職員室に入られたことあると思いますが、きょうの行事、あしたの行事というのが黒板に、校長先生方の裏の黒板に書いてあるのが普通でありましたけれども、市内ではもうそれはないという学校もございます。もうパソコンを開けばきょうの予定、明日の予定と全部入っていると。ですから、かなりいろんな面でその効率化等にも役立ってきているという面もございます。

そういう中での電子黒板、スマートボードという名称でおっしゃいましたけれども、電子黒板の配置状況でございます。

現在、68台を小・中学校の中に配置しております。全部で157クラスでありますので、これが約43%程度の教室に配置しているという状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

43%、157クラスのうちの68台ですね。この43%が高いと見るのか低いと見るのかというような取り扱いになってくるかなと思いますけど、現段階で43%、よく進んでいるほうだなと思います。

ただ、今後の展望としてはどのような方向になっていくのか。43%さらに充実させようとしておられるのかどうなのか、そこら辺を確認したいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

43%という配置数は、小学校でいきますと月平均に十一・二、三時間、これは市内でいきますと1,370回使ったということになります。中学校でも352回は市内で1カ月のうちに使っているということで、非常に活用は進んでいるというふうにも見ております。また、配置の43%につきましても、これは県内でも非常に先進的な配置ができているということで受けとめております。

ごらんいただいた方は感じられたかわかりませんが、非常に配置したことによってかなり変化が、いい方向での変化が出てきているというふうに見ております。今後もしきたらかなり高いという条件がありますので、厳しいところではありますが、できたら1台でもふやしていきたいという思いでおります。

**○議長（牟田勝浩君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

予算的には確かに費用がかかる面があります。ただ、さっき話がありましたように、千三百何十回、中学校でもまだ350回、私ちょっと聞いた話によるとですね、もう学校の同士で取り合いになるような話も聞いたとつとつですよ。私が今度の授業で使うけんがとかというごたつふうですね。この辺、市長の考えてどうでしょうか。今後やはりこのIT分野、スマートボードをやっぱり学校分野にももっと導入していかにかにかんかなというような思いを持ってられるか、今の現状と認識を踏まえ、市長の見解を伺いたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

スマートボードは物すごくスマートでいいんですけど、予算がスマートなんですね。ですので、これ物すごくお金がかかるわけですね。ですので、これね、民主党が仕分けの対象になったぐらいに、実は民主党政権下においては、スマートボードというとは物すごく重要性の低いかとですね。ですので、これは違うぞということは、私たちだけじゃなくて、教育委

員会だけじゃなくて、佐賀県もそういうふうな認識ですので、そのスマートボードに対する補助金ですよね、この確保について、やはり我々は声を上げていく必要があるだろうと。その中で、これはなるべく財政負担を市民の方々に強くないようにしながら広げていきたいなというふうに思っております。

ですので、やっぱり私も上田議員もそうですけど、あそこの現場に行けば考え変わりますもんね。何かスマートボードとか役に立つかと僕も思っていました、最初は。上田議員も言いよんさったですもんね。それで行ったら、ころっと変わりましたもんね、僕らね。ころころ兄弟です。

ですので、そういうふうに現場に行って子どもたちの反応をつぶさに見て、そして、思った以上に学校の先生方が生き生きされておられましたもんね。ですので、そういう意味からしても、これは効果は物すごく私自身も、教育効果以外の効果もあると思いますので、積極的に推進をしてみたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

おっしゃるとおりなんですよね。私もあんまり教育の分野にITを活用するのもどうかなと最初は思いよったとですよね。ただ、でも子どもたちのこの食いつき方というか、もうその集中の仕方を見ると、ああ、やっぱりもう今時代が時代なんだなというような感じも受けるところであります。

だから、今後ますます、さっきのグラフじゃないですけど、IT、情報技術、情報通信技術がどんどんどんどん上がっていくにつれて、やはり子どもたちもそれに対応する力というのは養っていくべきなのかなというように思っているところであります。

では、現在、武雄中学校と並行して武雄小学校においても改築工事が進んでいるわけございまして、その武雄中学校は仮設校舎が今あって、パソコン室のほうにインターネットの環境が維持されているということでもありますけれども、武雄小学校については、来春から夏にかけてちょっと仮設校舎が建てられていくというような話を伺っておりますけれども、この武雄小学校のその仮設校舎に対してのインターネット環境の維持ですね、ここら辺をどう考えているのか、まず確認したいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

校内LANの整備につきましては、武雄小学校の仮設校舎につきましても整備をして、従来と同様の教育環境をつくり上げるということで考えております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはこれから教育委員会と詰めますがね、もう線は古い、そいぎ、パソコンに縛られるということになるですもんね。あるいは机に縛られるということになりますので、今iPad（アイパッド）も含めてそうなんですけれども、基本的に無線LANですね、Wi-Fiを整えたいというふうに思っていて、そうすると、例えばWi-Fiがあることによって先生方が机と一緒に考えることができるわけですね。あいが有線LANやったら、ほんなごてそこにしか縛られるごとなっけんですよ、それは教育の効果を大分減じます。ですので、Wi-Fi化を積極的に進めていきますと同時に、これはちょっと話ずれますけれども、庁内も一部Wi-Fi化を始めます。武雄市役所の中ですね。多くの市民の方々もお見えになりますし、ですので、図書館、文化会館、一部やっていますけれども、こちらの市役所の庁舎、特に2階ですよ、についてはWi-Fi化を積極的に進めてまいりたいということで考えております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

もう本当ありがたい話です。市役所のWi-Fi化も本当に必要だと思います。やはりパソコンを持ってきて、ここでこうちょっと調べ物をとったときに、私たちは入られんわけですよ、市役所の無線の中にですね。いろんな、やっぱりもちろん情報のセキュリティーの面もあると思いますけど、やはりそこでだれもがWi-Fi使って、ネット環境を使えるというのが本当に必要なものだと思いますので、そこはぜひひとつお願いします。答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これね中の話なんでね、この市議会で申し上げるのが適切かどうかわかりませんが、もう本当に遅いんですよ。もう武雄市役所のLANというのは、もう乱が起きそうならい、もう本当に。これね、何でそうなるかというのは、もうセキュリティーのかけ過ぎ、それと、何かね、もう見てはいけないものを制限ばしとっけんがですよ、結果、情報ば取り出すとの物すごう遅かわけですね。そいけん、例えば調べもんばするにしても、普通の今のWi-Fiやったらもう3秒で出るのが、場合によっては四、五十秒かかるわけですよ。1個1個のページ、1回四、五十秒やったらよかですよ、だけど、ページを切りかえるときに四、五十秒、四、五十秒でかけとっぎんだですよ、もう仕事にならんですもんね。ですので、個人情報とか超重要事項ですね、特に市民の皆さんたちに直結したものについては、

LANで流すまいと、そこで困るところと、要するに、LANで困った場合に、今ウイルスとか結構あるじゃなかですか、そいにやらるっですもんね。そいけん、そこについてはですね、もう基本的に遮断すると、今も遮断していますよ、ちゃんと。ですが、もっとそれを嚴重にしつつ、我々が実際ですね、例えば職員が、私はメールで指示はしませんけれども、職員の、何ちゅうんですかね、メールとか、いろいろ来っわけですよ。来たときに、余りにも遅い、開くのが。そうすると、職員がもう開かんがましになっわけですね、もう逆に。ですので、その重要な部分と日常的な行政的にやっぱり連絡を取り合わんばいかんごたっちはですね、もう軽いものにして、しかもそこには、先ほど上田議員もいみじくもおっしゃったように、そこには市民の皆様方、議員の皆様方も入ってこれるようにLANを構築したいというふうに思っています。

ですので、そういう意味でしっかり情報を分けて、こっちは載せないと、こっちは部分は広く浅く軽くして行って、皆さんたちが乗られるようにですね。そいけん、武雄市役所に来ればWi-Fiにつながれるというふうにぜひ持っていきたいというふうに思っております。これについてはまた庁内で議論をした上で、これは議会とも事前に相談した上でですね、今度の3月議会にきちんと予算要求をしていきたいのと同時に、これはITの、黒岩委員長のIT推進委員会でもそういった肉づけの議論をぜひお願いしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっとさっきも見せましたけど、このグラフですね。（パネルを示す）ここまでやっぱりIT、情報技術が発達して行って、確かに市長が今おっしゃったように、私もきのう議会事務局でちょっと調べもんばしたかったもんやっけんですよ、ちょっとパソコンば、ちょっとネットば貸してくださいとお願いしてちょっと借りたんですよ。この暇の要ることですね、先に進まんわけですよ、もう情報量が多くなれば多くなるほどもちろん重くなっていくので、インターネットでここを見たいと思うとったページがなかなか開かんわけですよ。この開かんとが、もうさっきもいみじくもおっしゃったですけど、もう開かんけん開くまいってなると。もしそれがどうしても取らないといけない情報となると、ひたすらそれがあくまで待たんといかんわけですよ。この時間のロスが物すごいと思います。うちのパソコンで、私のパソコンでずっと家でしよった場合は、もうすぐある程度、もう開いとっやろうというごたっつが本当に何十秒、1分2分で、この間黙ってパソコンの前にやっぱり職員もおんさつとやろなって思うんですよ、いろんな情報を調べられるときにですね。だから、ここはやっぱり改善していかんと、仕事の業務の効率化にはもう大きなマイナスなのかなと思いましたので、ぜひそこは検討してもらいたいと思います。

ちょっと本題に戻っていきますけど、その学校でですね、ITには外れますけど、さっきの仮設校舎の分の話でちょっと何点か確認をしたいと思いますけど、武雄小学校の改築工事のスケジュール関係は今どういう状況になっているのかを確認したいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

（パネルを示す）これが一応、武雄小学校の全体の今現在の改築の予想図であります。

今議員がお尋ねになりました工程でありますけれども、平成24年度の6月から8月までに仮設校舎を建設したいというふうに思っていて、夏休み期間中に引っ越しも含めて行いたいというふうに思っています。

それから、その後、仮設校舎ができ上がった後に既存の今の2棟目、3棟目、あそこの解体工事を9月から11月ぐらいまでに行っていきたいと。解体が終わった後に、本体工事として来年の12月から平成25年の11月ぐらいまで、約11カ月程度になるというふうに思いますけれども、計画を今しているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

今先ほど計画、日程等をざらっと説明していただいたわけですが、その中で、やっぱり学校改築工事をやっていくというふうになっていった場合にやっぱり気になるのは、子どもたちが従来やったら年間のスケジュールをこういうふうにごろごろと過ぎていくというのができるけれども、工事があるので、そこにやっぱり影響が出てくるんじゃないかなと心配するところがあるわけです。ちょっと私も脳みそまで筋肉と言われてしまうぐらい体育会系な感じのところもあるものですから、まずその体育館と運動場、この2つが利用がどういうふうに制限がかかるのか、確認をしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

体育館につきましては、まず、平成25年度以降という形になりますので、運動場につきましては、先ほど申し上げたように、仮設の校舎を大体今設計中でありまして、延べ面積で2,600平米ぐらいになるかというふうに思っています。ここについては、運動場に設置をしたいということで、これは今の教室棟、あるいは体育館との連携の関係で、そういうことで考えています。

そういうことになりますと、運動場の半分程度が仮設校舎という形になりますので、運動場の分を使った体育の授業に影響が若干出るかというふうに思います。ただ、授業数等いろ



いる勘案して見ても、何とかやっていけるというふうに思っていますので、そこら辺は学校と協議をしながら、できるだけ支障が生じないようにということで調整をしたいということで考えております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

体育館は新しいのが建ってから古いのを解体していくというようなやり方ですね。そして、体育館を使っておられるジュニアバレーとか剣道とかといった社会体育にも練習場としては影響は何も出てこないよというところですね。

一般の方もバレーとかいろいろ練習で使われたりしておりますので、そこら辺をちょっと確認したかったわけです。

運動場は半分ぐらい仮設校舎が建ってしまうと、体育の授業とかはそれに対応してやっていくということですね。

そして、運動会とか、あとは社会体育、少年野球団が使っているんじゃないかなと思いますけど、そこら辺あたりの対応としてはどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

学校行事につきましては、運動場を使うのが、運動会が、全体的に使うのはそういうことだと思っています。今現在、武雄小学校の場合については運動会、秋に行われていますけれども、ここら辺の実施時期について学校とも調整をしながら、ひょっとしたら平成24年度と25年度の時期がずれてくるとかいうことはあるかと思っておりますけれども、調整をして影響が出ないように努めたいというふうに思っています。

それから、運動場を利用されています少年野球とかの練習につきましても、これは練習場所の確保として、朝日小学校の運動場の改築というか、するときにもありましたけれども、白岩運動公園などの運動施設の利用ということを担当の方等含めて協議をさせていただければということで考えているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、わかりました。そこら辺をぜひ、学校の改築工事などで、子どもたちのためにやっている事業なんである程度の影響が出てくるのは仕方ないかと思っておりますけど、やっぱりどうしてもそこで6年生というのはもうこの年が最後の年になるということも、毎年、その年の6年生がなるだけ思い出に残るような対応をしてやっていただければなと思っておりますので、

ぜひよろしく願いしておきます。

続いて、ちょっとホームページについて入りたいと思いますけど、市長の演告にもありました、昨日の答弁の中にもありましたけど、きょうの答弁にもあったかな。武雄市には1月から現在にかけて視察でお越しの数が実に113団体、1,017名とおっしゃったですかね。そのうち500名を超す方々が御宿泊いただいているというような報告をいただきました。

市長が就任する前、つまり合併前は年間十何件ぐらいやったというような話を聞いています。15件ほどやったというような感じで聞いております。現在とすると、およそもう10倍。この行政視察、武雄市の取り組みというのが観光業の発展にも役立っているということは本当に喜ばしいことであると思います。

その上でですね、武雄市のホームページが本年の8月からフェイスブックに移行されておまして、現在ではほぼこの4カ月経過しているわけです。この視察の中身もいろいろあると思いますけど、このフェイスブック化したことによる行政視察というのは、一体今どの程度お越しになっているのか、お伺いしたいと思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

お答え申し上げます。

平成23年度ですね、4月から今までなんですけれども、このICT関連視察が合計で92件中69件がICTの関連視察になっております。これはもちろん、例えばイノシシですよ、イノシシとICTとかというのを含めてなっていますので、これだけというのはなかなかないんですけれども、ただ、テーマからいうと、平成23年度のテーマで一番多いのはイノシシです。イノシシが22、フェイスブックが20件、MY図書館が19件、これは2つともICTですよ。レモングラスが16件、ツイッターが11件、行政改革ですね、うちは行政改革100億円ぐらい減らしていますからね、借金を。それが10件、小学校のiPad（アイパッド）が9件、議会中継、これユーストリームで今も流れておりますけれども、これが8件というふうになっていて、上位がほとんど、そういった意味ではICTになっているんです。

これは余談ですが、余りにも視察が多くて、もう泊まった人しか受け入れませんで、議会事務局が悲鳴を上げたんですよ、もう無理ですということを言っている。それもそうだなと思いましたので、泊まった方だけは私がお目にかかって、かつきちんと対応しますということ流したら、これで減るかなと思ったら倍増しました。

世の中どう転ぶかわからんと思いますけど、ただね、先ほどもありましたように、平日来らすわけですね、平日。そうすると、もともと宿泊地というのは、旅館もホテルも平日は大体あいとっですもんね。そいけん平日にお泊まりいただいて、かつそこでお金を落としていただく方策をさらにまた考えていますので。ですので、視察開国令、やっぱり鎖国はしたら

いけません。ですので、そういうふうに武雄市の福祉の維持向上、経済発展につながるよう  
にしてまいりたいと思います。

最後にしますけれども、何でこれがここまで広がったかと、視察も含めてですね。（現物  
を示す）これなんですよ。スマートフォン、今までフェイスブックとか、例えば議会中継と  
か、全部パソコンの上やったですね。なかなか敷居が高い。しかし、今は電話がだんだんス  
マートフォン化しています。ほとんど上田議員のブログも私のブログとかも多分スマートフ  
ォンで見よんさっ人の多うなとっですもんね。ですので、そういうことからしても、もっ  
とさらにこれから爆発的に見てくださる方が広がっていくというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。さっきの答弁の中にありましたように、IT関連に関する視察というのが本  
当軒並み上位にランクインしとるとですよ。私もちょっと資料をもらってるところですけ  
ど。これはですね、やっぱり市外の方とか、またフェイスブックユーザーの方とかというふ  
うな人から見ると物すごく先進的な取り組みであって、非常にいい、ちょっと言うぎ、私か  
ら見っぎ集客素材としても非常にいい素材だなと思とるところです。

ただ、このホームページのフェイスブック化、市民の皆さんからの反応がどうかという  
ところでいくと、私に寄せられている話というのが、結構賛否両論あるわけですよ。賛否両論  
ある中で賛成と反対の人の大体こう見よっぎ、フェイスブックのユーザーの人はいろいろほ  
んによかという話を聞くとですよ。ただ、フェイスブックに若干ちょっと入っている方も  
いらっしゃれば、全く入っていない方もいらっしゃって、そういう人から見っぎ、前のホー  
ムページのほうが見やすかったという方もいらっしゃるわけですよ。私も実際ホームページ  
を見て、前のホームページもよく使っていましたし、今のフェイスブック化された分もよ  
く見ていますけど、確かに見につかとは見にかつと私は思いよつとですよ。というのは、昔  
のホームページやったら、1つの情報をクリックしたら、その画面が全部それにないよっわ  
けですね。ただ、フェイスブックはそいがどこに出とるか探すのに私は暇の要っよつとです  
よ、まだ。なれの部分もあると思うですよ。

今のホームページから、フェイスブックからいくと、ずっと進んでいきます、もうこの  
情報終わったけん、ちょっとまたほかんところに行こうと思って戻るば押して、戻るところ  
が戻らんときの結構あつたりすつとやなかかなと思つて、これ私だけかなと思うごとですよ、  
戻るボタンを押して戻らんとですよ。何回かば一つと押してやったら物すごく目いっぱい戻  
ってしまつたりとかですね。そういう苦情とか要望、クレーム、いろいろあるかと思つた  
けど、そこら辺はどうですか。届いていますか、ちゃんと話は。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的にこれなれの問題だと思うんです。戻ったときはちゃんと戻りますよ。やっぱりフェイスブック側が緊張したとやなかですかね、上田議員に。

ただですね、今多分戻りにつかといっただのは、それはアクセスの問題なんですよ、アクセス数の。

ちょっとよかですか。（パネルを示す）多分これが影響していると思います。要は、移行前のうちの市のホームページですね、旧来のホームページは月5万のアクセスやったんですね。8月1日から12月6日まで、8月1日に完全移行、フェイスブック化しましたので、12月6日までに1,202万1,236名の方々がごらんになっているんですよ。1,200万ですよ。それで、時には私もようブログの炎上すっですもんね。フェイスブックもツイッターも炎上します。JR九州には乗りませんとか書いたら、やっぱりぼわっとなったですもんね。そいけんが、やっぱりつながりにつかといっただのはやっぱりあつとですね。そいけん、これがただ平準化していった、今フェイスブック側も昔のツイッターもそうですけれども、やっぱりそれでアクセスなんか改善しよっけんですよ、そいけん、そういう意味からして、ちょうどタイミングの悪かったと思いますよ、タイミングの。私もたまに戻らんねというときもあります。

それともう1つですね、やっぱりフェイスブックに親しめば、ああこいが便利ねと思うんですけど、実はフェイスブックというのはまだまだ不完全です、実は。そいけんが、物すごく、去年の今ごろのフェイスブックと、今は物すごく改良されとるわけですね。

ですので、これがどんどんどん改良されていきます。そいけんが、こういうふうにしてほしいというばフェイスブック側に意見ば言わんばいかんとですね。私もたまに入れます。そいぎ、やっぱり、さすがフェイスブックですね。フェイスブックとやっぱり橋下市長は早い。やっぱりぱつと変わりますもんね、予告なしに。

ですので、そういう声をやっぱりユーザーとしても上げていく必要があるだろうというふうに思っています。特に私は日本フェイスブック学会会長でもありますので、それを、例えば日本フェイスブックの児玉代表ともルートがありますので、そういうことで私を活用していただいてもありがたいというふうに思っております。

上田議員の御指摘は、フェイスブック本社にきちんと届けたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

じゃ、ここでちょっと視点を変えまして、フェイスブックが主に言っていたんですけど、ちょっとそれよりか前の時代に移って、武雄市は全国的にも先駆けて全職員にツイッターのアカウントをとらせるなどして幅広くツイートさせる仕組みというのを確立されたんじゃない

いかなと思っています。ここで非常に効果が発揮されたなと思ったのが安全・安心面なんですよね。安全・安心面で私はもう本当にこのツイッターの効果というのが感じたところでありまして、東北の震災でも効果を発揮したのは、そのツイッターやフェイスブックといったソーシャルメディアですね。要は電話やメールだとつながらないものがツイッターとかフェイスブックだったらつながるわけです。つながるといふか、その仕組みが全く違うものですから、声が届いたというような感じですね。

そういう中で、メールだと一人一人に直接送るといふような感じの仕組みです。ソーシャルメディアであれば、もう瞬時にフォロワーには全部届いていくと。ただ、ソーシャルメディアだと、その人がそこにとりに行かんと見れんわけですね。フェイスブックのページなりツイッターのページを自分で開いて見に行かんといかんと。メールだと、そがんとちょっと仕組みが私もはっきりわかりませんが、メールだと着信といふか、受信お知らせが来るじゃなかですか、そこら辺の違いはあるんじゃないかなと私はちょっと思ったわけですよ。ただ、私もツイッターとかいろんな人のつぶやきをよく見るんですけど、記憶に新しいところでいけば、ことしの8月23日、市内で物すごく短時間でのゲリラ豪雨がありましたよね。あのときに、私も地元の消防団員の一員として自分の管轄地域をまわったわけです。巡回していたら、ツイッターを見ると職員の皆さんが自主的にここはつかっとつです、ここはもう冠水で通行できませんとかというふうないっぱい情報を入れてもらったわけですよ。こりゃよかことねと。

私はそれで、巡回する前はたまたま小学校におったわけですよ。小学校で育友会のお母さんたちとかとも一緒におったんですけど、やっぱりかたっとんさんわけですね。あんまりツイッターとか、あんまりおんさんわけですよ。そいぎ、がんして、ここんたいつかつつ、ああ私帰らるろうかていうごたつ話になつわけですたいね。だから、安全・安心面からも本当にこのソーシャルメディアというのは有効なツールじゃないかなと思っています。

ただ、これ残念ながら、ちょっとやっぱり利用者というのが少ないんじゃないかなと、私は感じておるとですよ。そこら辺は市長はどがん感じとんさつか、見解をお聞かせ願いたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私も同じことを言おうと思っていたんですね。8月末のゲリラ豪雨のときは、吉川議員、議会でいう吉川議員が画像つきで結構ツイッターばしんさつですよ。そいぎ、私はちょっと離れたところにいましたので、それに呼応してうちの職員の皆さんたちが、吉川さんのところはこうですけど、うちんところではこうですかというふうに、次々に連鎖がやっぱり広まったわけですね。ですので、ただ、そうは言っても、じゃ、それ市民に全部伝わって

かと、それはそんなことはありません。ですので、大事なのはね、ここからが口コミなんですよ。要するにツイッターを持っている人が、がんなっとなつぱいと、吉川さんのがん言いよんさつと、あるいは消防団ががん言いよんさつと、職員がこのように言うとかですよ、上田議員のごと、あごがたっしゃかけんが、肩も強かばってんが。

ですので、そういうことで人間ソーシャルネットワークですよ、そこから先は。全部デジタルですというのは不可能です。しかし、やっぱり議員というのは影響力があります。ですので、その議員が見ておられて、それ、じゃ、こうばいとか、近くにおんさつ人たちにこうですと。うちの職員もそれ言いよるとですよ。そいば全部使いこなす必要はないと、しかし、見ることによってそいば伝えてくれということをしています。実際ですね、じゃ、ツイッターがこれからどうなるかといったら、ツイッターはもう多分衰退すると思います。もうね、今回の震災がれきの件もそうですけれども、私も炎上しましたけれど、見よつたらね、もう見るにたえない。そいけん、今までツイッターを1つのフィールドでしよつた人たちが、そいが、私もそうですけれども、嫌気差しとつですもんね。ただし、さっき言ったような、災害とかなんとかというのは物すごく効果ば發揮すつとですよ。そいけん、そういうふうにコミュニケーションのツールとしては減るかもしれんですけど、災害のお知らせとか、例えばイベントの告知とか、そういったのには残っていくだろうと、告知板ですよ、多分。

それで、フェイスブックのほうにだんだんだんだん移行すると思います、実名で。ただし、フェイスブックの問題は、あれですもんね、お友達の数の限られとつとですよ。5,000人なんです。ツイッターは無制限です、ツイッターは。そいけん、孫さんとか、もう150万人とか70万人おんさつし、私は1万5,000人おりますけど、フェイスブックは制限があるし、そこから先はなかなかこう、そして、フェイスブックの場合は即応性のなかですもんね。

ですので、そいけん、ツイッターにかわるものが多分また出てくるやろうて、昔の2チャンネルんごとないよつとですよ、もう。ですので、そういうふうに変わっていくのかなということをおもっています。

もう1つですね、大事なのは、何か1つに頼るといとは危険ですもんね。そいけん、メールのよさですよ、さっきおっしゃつたごと、何もせんでも来るといことと、とりに行く、例えばツイッターであるとか、みずからもつと熱心に書き込んでいくフェイスブックとかというのは、いろいろあつて、その中でどれか一つでもアクセスできた人は、それを今度は言うていことが大事なんじゃないかなというふうにおもっています。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、もうおっしゃるとおりですね。ただ、安全・安心面を見た場合に、県が主体で取り組んでいます、これ県ですよ、たしか。安全・安心からあんあんメール。あんあんメール

とかですね、こういったものの登録ですよ。やはり市長の家族がどうか分かりません。私のうちの家族でいえば、あんあんメールに加入しとるのは私だけなんです。うちはかみさんに言うてもなかなか加入せん、学校のお知らせメールなら、すぐ言うたその日に登録ばしよったぐらいな感じですよ。うちはおふくろでも、あんあんメールなんか登録しとらん。でも自分の命を守るとには、ほんにあのあんあんメールでの情報というのは、命までの問題にはならんとしても、冠水状況とか、そういったのもとれば車が水没せんで済んだりとか、いろいろやっぱりメリットはあると思うとですよ。もう市長の家族はどうか、御両親が入ってられるのか、奥様が入ってられるのか、そこら辺も踏まえてですね、おいはこのあんあんメールとか、また、ほかに災害情報メールとか、そういったのはですね、ソーシャルメディアもそうですけど、何か登録推進月間じゃなかばってんです、そういうふうにして、もうとにかくいろんな人がそういうのに参加しようという仕組みも必要やなかかなと思うとですけど、そこら辺について答弁を願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう大賛成ですね。やっぱりうちは妻があんあんに入っとるとですよ。実は私はあんあんには入っていません。それは何で入とらんかというぎですよ、ほかからもいっぱい来っけんが、私の場合は、立場上。

そいけんがですよ、そのあんあんに入って、そしてなっぎんた、もうただでさえいっぱい来よっけんですよ、私は直結ルートがあっけんが、そっちから来ています。これは職務上、それは勘弁願いたいんですが、ただ、うちの妻からも電話がかかってくつとですよ。例えばこういうことがありました。隣の市で凶悪事件が発生したと、今犯人が県西部やったかな、東部やったか忘れましたけれども、逃走中ですよって言った瞬間に妻から電話がかかってきたですもんね。実はそれですね、私の特別なルートよりもそっちのほうが早かったですよ。おいさと思いましたがもんね。そいけん、私もあんあんに入ります。

そいけん、そういったことはやっぱり使ってみて、使う人のやっぱりしてですね、自分が納得して入るということがまず1つですけど、もう1つですね、うち職員全部加入させます。職員に全部。390人あんあんに加入をさせます。ほとんどもう今入っていますね。くらし部長は入とんさつですね。

〔くらし部長「はい、入っています」〕

ですので、もうほとんどこがんやって入とつとですよ。これ打ち合わせどおりです。

そいけんがですよ、そういうことにして、まず職員が390人全部入った上で、その上でですね、職員から皆さんたちに言うていうことと、もう1つですね、来年どこかのタイミングで、確かに月間をつくります。あんあん加入促進月間というのを。そのタイミング等につい

ては、またちょっとこれ議会と相談をさせてください。どのタイミングで効果的というぎ、行政だけで考えてもなかなかいい知恵が出ませんので。それはよく相談をさせていただきたいと思います。いい御意見ありがとうございます。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。で、さらにちょっと視点をこれからまた変えていきたいと思いますが、現在の情報化社会の中で、もう本当に便利が、本当に便利なところは便利なんですけど、ネットでいろんな情報がとれて、いろんな物が買える時代で、この急速な普及というのはもう地元経済にも少なからず影響していると思うわけですよ。便利ない時代になったなと思えるところもあるんですけど、顔と顔を合わせた商売が成立した昔から考えると、人情味がなくなった悪い時代かなというような感じにも思えるところもあるわけです。

そこで、武雄市が購入される物ですね、備品、いろんな物があると思います。いろんな物があると思いますが、便利なネットというのは、それは否定もできませんけど、ネットで購入するような、市の何か購入品をネットで購入したりとかっていうのがあるのかなのか、そこら辺を答弁お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

物品調達でインターネットで購入したことはありません。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

購入する実績はないということですね。

ではですね、購入する際に、随契だろうが入札だろうが、大体予定価格というか、参考価格、予定価格というものがあると思います。それはその予定価格についてを一つの例えば品物でいけば、ネットで調べて市場価格がどの程度なのかなというのを、ネットの価格を参考にするようなこと、そういうことはあるのかどうなのか、答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

予定価格について、ネット通販の価格を参考にしたこともありません。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員



**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

もう本当ですね、今ネットを使えばいろんなものがあるわけですよね。ただ、武雄市が購入する場合にネットを使っただけのそういうやり方というのは、もうあってはならないことだと思ひまして、市民の人たちもですね、もうそがんことだけは絶対させんでのと言われたもので、ぜひちょっと一つだけそこは確認をさせてもらったところです。

要は、今できれば、今購入される場合にですね、やり方、予定価格を設定する際はもうそれをネットなりを使わないということになれば、市内の業者の皆さんにお見積もりをもらったりとか、そういうところから予定価格というのが設定されるのかなとちょっと想像するんですけど、そういうふうに予定価格を設定したりとかお見積もりをお願いしたいとか、これを購入したいとかとなったときの連絡方法ですね、そこら辺は今実際どうなっているんですか。これだけITが進んでいると、そこら辺はITを使ってもいいんじゃないかなと思うんですよ。メールを使ったり、フェイスブックとまではちょっと難しいかなと思うんですけど、今やっているのは、ファクスだったり電話だったりとかというふうなところになるんじゃないかなと思うわけですね。ただ、どうしてもコストの面も考えて、タイムリーな部分も考えると、今我々議会のほうでも、議会事務局からの連絡とかなると、ファクスで来たりするわけですよね。それもかなりやっぱり通信料がかかっているんじゃないかなと思ったりするんですよ。これメールに変えれば一発で済むのにねと、短時間で済むし、一斉に全員が情報を、同じものを一斉な同タイミングで届くのになとちょっと感じるところがあるんですけど、そこら辺は部長どうでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

角政策部長

**○角政策部長〔登壇〕**

確かに、言われるように、一斉にできるという、そういうメリットはあると思います。ただ、相手さんがそれを見ていただけるかどうかということになると不安があるというところで、いわゆる直接御連絡して、非常に大事な商売の話ですので、直接連絡しているというのが状況でございます。やり方についてもう一遍検討したいというふうに思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

そうですね。連絡される側の方もちょっとメール等をやっぱりよく利用されていないとですね、そこら辺もあるんじゃないかなと思います。

ただ、でもこれからの時代はそこに対応していくことを考えてもらわんとやっぱりいかなとかなというところで、連絡手段というのをやっぱり確立していく必要があるんじゃないかなと思います。

ではちょっとまたこれで、視点をまた変えまして、武雄市において全国初となる自治体によるネット通販、これまでの質問でもありました。F & B良品ですね、が始まりました。これについては非常に私は画期的な事業だと思うわけですよ。自治体による通販ということで、購入者、出品者にとっても信頼性というのがまずやっぱりあると。非常に安心できるものだと。さらにはですね、ITになじみが薄い方というか、これまで私も亡くなった、もう何年も前に亡くなったんですけど、おやじがよう言いよったとですよ、帰ってくるときに。今からネットで売ったり買ったりでくっつとやろというごたっふうでですね。うちもそがんで売ったりでくっつとやらんやというような話を私もされたことがあります。自分でやろうとして、自分でやっていたんですけど、なかなかそう単独の、一つのホームページ、一つの商店で、ネットで売ろうとしても、なかなかいかんわけですよ。だからこそ今楽天とか、そういったこの集合体、何というですかね、あれは。マーケットというか、ネットマーケットというですかね、そこら辺がみんな一緒にネットで仮想商店みたいな感じになるわけですよ。これを自治体でやるというのは、本当に私はいいい取り組みで安心感もあるし、費用面からもいいメリットがあるだろうと思います。

ただ、残念ながら、ソーシャルメディアを利活用されていない方とか、ネット環境を余り利用されない方というのはもうほとんど情報を持っていないに等しいわけですよ。

きのうも答弁の中にもありましたけど、新聞でですね、もちろん新聞に載りましたので、結構文章で見て、何となくイメージはつく方もいらっしゃると思いますが、なかなかこれは文章で伝わるものじゃないなというのがちょっと私は感じておるところですよ。このF & B良品についてもっとわかりやすく、こういうもんですよと、こういうことですよというのをちょっと御説明をいただきたいなと思いますけど、御答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。（パネルを示す）

F & B良品というのは、市のフェイスブックページですね、何度も申し上げますけど、うちのフェイスブックページは今まで4カ月ちょっとで1,200万人の方々がごらん、1,200万人ですよ、1,200万人。ただ、見てもらうだけじゃもったいない。フェイスブックをされる方は割と時間があって、割とお金持ちだということなんですよ。ですので、この人たちをフィールドじゃなくてマーケットに変えるということ、そして、市は、行政は信頼性抜群です。しかも1個1個の品目についてきちんと載せることができます。したがって、行政が選んでいるものはまず間違いがないだろうということになります。これは何もね、楽天とかアマゾンさんと競争するつもりはありません。楽天さんは高い出店料で、それでも載せていいという人たちがするというふうになっているんですけど、それじゃなかなか載せきれんという

がいっぱいあっわけですね、あっわけですよ。ですので、そういった楽天等で拾えない、本当に個人、あるいは小さな商店がつくっているものをここに載せると。ですので、これについては、何というんですかね、商店業者の方々がこいばせんでもよかわけですよ。真っ当な、本当に売れる品ですよ、売れる品を言うてくんさっきよかとですよ、言うてくんさっき。そいぎ、我々は庁内に選定委員会というのをつくっています。行政でいうと前田副市長が入っています。ですので、例えば商工会の方とか観光協会の大坪会長とかが入られていますので、そこで選別をすることになるわけですね。何でもかんでも載せられません、供給がどうだとかいうのを制限かかりますので。それを載せて今8品目になっていますけれども、一番12月7日は松阪屋さんの佐賀牛のセット、これ1万円です。15分で売り切れしました。15分ですよ、開始、1万円のセットが。レモングラスですよ、レモングラスを載せて、今8品目になっています。これを向こう3年間で1,000品にします。1,000品にして、食べ物だけじゃなくて、例えば武雄焼であるとか、今いろんなところでね、黒髪窯とかいろんなところと今調整をしておりますけど、山口昌宏議員からもありましたけれども、今頑張っておられる方々を載せていこうということで今しております。

これであとですね、これの担当職員をつけました。(パネルを示す)古賀敬弘といいます。Iターン、Uターンで、うちの山田恭介と一緒に優秀な成績かどうか知りませんが、入ってきました。それが入ってきて、彼が今ずっとですね、デスクワークのかたわら、いろんなところに今商談に行っています。ですので、ぜひ覚えといてください。木村さん大丈夫ですか、はい。

ですので、こういった彼とか、あと2人つけておりますけど、そういうことによって掘り出しを今進めていて、基本的に掘り出しを進めていて、載せるといったことでやっぱり売っています。

繰り返し言いますが、手数料がかかりません。写真も我々が撮りに行きます。ですので、実際、上田議員がされたように、例えばページの開設とか、あとクレジットカードとかせからしかとですよ。もう面倒くさか。ですので、これも全部うちが一元的に処理します。ですので、行政は其中で中抜きの中とですよ、中抜きの。その全部の収益はすべて生産者にお渡しするということになりますので、そういった意味からして、私は山口議員が先ほど最後のところでおっしゃられたように、武雄市の地域の福祉の維持向上、そして、地域の所得の向上につながっていくというふうに確信をしております。3年間で1,000品、年商10億円、無理かな、思っています。

そして、これで最後にしますけれども、これね、実際新聞をごらんになられた方々、佐賀新聞、西日本新聞、日経新聞、読売新聞に載りましたけれども、まだ見ていない方とか、見られた方でも、私出したかというとはあつとですよ。田舎レモンとかね。あるいは今度のニューハートピアのいのししまんも出つと、ししまんも出つとですよ。そういうふうに1回商

工会議所と商工会にちょっと私たちお願いをして、これさっきの答弁でお答えをしましたけれども、商談会をちゃんとやろうと思っています、この説明システムを含めてね。それを、12月はちょっともう議会に私自身も集中しますので、1月、年明けにそういう商談会をして、その説明と掘り出しをしていくというふうにしていきなというふうに思っております。

ですので、今あるものを出すということです。今ある物を出す。それと、今あるものを場合によっては組み合わせるで、だから、原田酒店のあれですよ、おいしいコーヒーの、チョコとコーヒーと、それと、今黒牟田焼のソーサーのあるですもんね。そいば組み合わせで出すとか、あるいは鍋セットであるとか、そういうふうに武雄の産品をそれだけ出すんじゃなくて、組み合わせでセットで出していくということで付加価値を高めていこうというふうに思っております。

小池副議長もおられますので、ぜひJAさんもここに一緒になって、オール武雄として売り出していければありがたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

選定委員会で選定をされて、それを通過した分が載っていくと、じゃ、もうはっきり言うぞ、何でもかんでも御相談に、スタンスとしては、もうとにかく市民の皆さんの御協力で、アイデア持ってください、とにかく持ってきてください、古賀さんあてに持ってきてくださいと、その古賀さんから選定委員会のほうに行くと、もうその写真よかですから、ということですね。

じゃ、もうとにかくやっぱり、今見よって8品目をもっともっとふやしてほしかなというところがあるもんやっけんですね。じゃ、とにかく市民の皆さんが私はネットで、自分では売れんけど、ネットでも売ってみたかというようなところは、もうとにかく駆け込み寺になるというような位置づけでよかわけですね。

〔市長「はい」〕

はい、わかりました。

それでは、総括的な感じでちょっと入りたいと思いますけど、現在、武雄市においては、インターネット、またデジタル放送の受信関係ですね。これについて市内全域で可能なのかどうなのか、そこら辺ちょっと確認をしたいと思います。ブロードバンドの環境というのかですね、そこら辺をまず答弁お願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、答弁に入ります前に、ちょっとさっきの答弁の補足をしたいと思うんですけ

れども、これ、フェイスブック化、F & B 良品も含めてですね、既決予算の枠内でやっておりますので、これに新たに議会にお諮りする、ひいては、市民負担になるということにはなっていないので、それはぜひ御理解をしていただきたいというふうに思います。

答弁に入ります。

光ファイバー、ADSL、ケーブルワンのインターネットの、私はケーブルワンのインターネットを利用しています。これすごくいいです。ですので、ブロードバンドを全域で、全部重複して入るところもあっわけですね、武雄町なんかは。しかし、例えば牟田議長の若木町とか武内の一部分というのは入っとらんところもありますけど、何か一つとれば、武雄の場合は恵まれたことに入れるということで、空白地帯というのは基本的にありません。ですので、それぜひ御理解をいただきたいというふうに思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

空白地区はないということですね。はい、わかりました。

ネットのブロードバンドといいますか、その環境が100%武雄市内ではどこでも、どういう方法をとろうとしても、ADSLでも光でも、それこそケーブルテレビでも、そこら辺を使ってでもすべて受信ができる地域にはなっているということにはありますけれども、これはもちろん、これから先の話は相手があつてのことですので、市民の皆さんがどうするかというところにもなってくるかなと思いますけど。

先日ですね、総務省の地域情報化アドバイザーであります川島さんにちょっと伺った話からいけば、これは佐賀県内の話です。佐賀県内でのインターネットの接続可能率、要はブロードバンドの整備率ですね。これは99.94%、残りごくわずか、ただ100じゃないというような話をいただきました。残り0.06%ですからね。ただ、ほぼ100%という数字でありますけど、残念ながらこの接続率で見ると48%、48%といえば2軒に1軒はインターネットがないというような感じです。ちょっとこれ見づらいですけど（パネルを示す）これはちゃちゃっとつくって来たところですけどね。

48%ですよ。一方ですね、この携帯電話、携帯電話の普及率、下のほうですね、携帯電話の普及率は、個人でいけば60から70%と、これは子どもたちが持っていないことを考えればまあ妥当な数字だろうなと思って聞いていたんですよ、個人でいけば。子どもが持っていないというような前提もあると思います。もちろん1人で2台3台持っている方もいらっしゃいますけどね。さらには、せいけん60から70%という話を聞いて、世帯における携帯電話の普及率となると、これになるともう100%だろうというようなお話をいただきました。

つまり何が言いたいかということですね、このデジタルの情報をとるためのツールとしては、さっきもお話ししましたけど、パソコンよりも、これらはやっぱり携帯電話なりスマートフ

オンですね、そこら辺になってくるんじゃないかなと思うわけですよ。

そういうことでいけば、安全・安心面でも加入率が低いということも先ほどありました。さっき角部長からも答弁をいただきましたけど、随契とか入札とかの情報もメールでの仕組みというのがまだなかなかすべて確立もされていないと。要は100%にはちょっとほど遠いこのパーセンテージを、所持している率は世帯でいけばほぼ100%ということで考えればですよ、これをやっぱり100%に近づけることをやっぱり行政としてはこれからITの、情報技術化はもっともっと進んでくると思うわけですよ。そこに取り残されないように近づけていく方法が必要じゃないかと思うわけですけど、これについての見解をお聞かせ願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はちょっとここの部分は上田議員と見解が少し異なります。もうね、机の上でパソコンを開くのはもう古い。もう構えんばいかん。特に私なんかまた悪口ば書かれとっかなと思うたりします。それは私の固有の問題かもしれませんが。

それよりも、やっぱりこれなんですよ。（現物を示す）これ、いろいろありますけど、スマートフォンで、もう今、専用のアプリがどんどん入ってきていますので、もうこれでほとんど見れるんですね。例えば、私も地元にはないものは、注文するときは前はパソコンでしていましたがけれども、今本当に急がんばいかんときとかなんとかというのは、もうここでもう注文ばすっですもんね。例えばアマゾン、地元ではちゃんと買いよっですよ。

○議長（牟田勝浩君）

市長デモは……

○樋渡市長（続）

デモは、デモだめです。ですので、おかしいですね。

そういうことで、私とすれば、何というんですかね、こっちのデモを使います。デモはしませんよ。スマートフォンで物すごく今簡単になっていますので、こっちがもうとり放題とかあるじゃないですか、パケ放題とか、そっちを多分進めていったほうがみんなが入りやすいかなというふうに思うわけですね。なぜならば、携帯の大人の所持率というのはもうほとんど100%ですよ。100%、ほとんど。高齢者の方々とかはちょっと別にしても、でも今70代の方々もほとんど持たれています。そう考えたときに、わざわざインターネットば引いてパソコンば買うというよりも、もうこっちのほうで持っとんさつとこにこいば推進して加えていくといったほうがもう早いんじゃないかなというふうに思っていますので、これは現状の最適解ですよ、一番いい解を見つけていくと。しかも、それが市民の皆様方にとって安くて使いやすいというふうになるようにしていきたいなというふうに思っています。

何かちまたではiPad（アイパッド）3が今度また出るっていうことも聞いていますの

で、恐らくこういう、何というんですかね、iPhone（アイフォン）とか、いろんな、これはアンドロイドですけれども、ものと、もう1つはタブレット型ですよ、iPad（アイパッド）とかキンドルとか、そういうふうにもう市場がどんどん移っていくと。これはお亡くなりになった、私も尊敬していますけれども、スティーブ・ジョブズが、あるいは孫正義さんが同じことをおっしゃっていますので、多分そっちの方向にどんどん進んでいくんだらうなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

見解が違うと言うけん、何ば言い出すかなと思うたら、全く一緒やなかですか。おいもその携帯でやっぱりとっていく時代ですよ、何でも、いうところで、私もちょっと思ったものですから、ちょっと違和感のあったところです。

そこです、（パネルを示す）このグラフ、下の60から70のところ半分ちょっと黒くしているんですけど、これが大体今持っておられるのの半分がスマートフォンらしいです。もう50%になっているらしいです。だから、そこら辺があるのかなと思いますけど。

そこです、ただ、どうしても今高齢者の皆さんたちが中心に、なかなかその情報をとるために携帯電話の使い方がわからなかったりとか、ネットの使い方がわからなかったりというふうなところで、ICT寺子屋さんですね、そこら辺が今一生懸命事業を営んでいられるというふうにこの前も説明をお伺いしました。事業の遂行をする上で、今後ますますITが進むにつれて非常に重要な事業になってくるんじゃないかなと思うわけですけど、そこでも携帯3社、ドコモさん、auさん、ソフトバンクさん、そこら辺もお呼びして事業をやられているらしいです。携帯電話でどういうふうに使えばこういうネットが使える、ツイッターができる、フェイスブックが使える、そういう講習をやられているらしいんですよ。これが県の事業として何か補助が、今年度で一たん終わるかもという話です。それがもし、それを切れた場合どうするか、武雄市としての取り組み、それも含めて県の事業の、県の方向性も含めてちょっと答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

うちは優秀な職員がいっぱいいますもんね、後ろに。

それで、ちょっと今教えてもらいましたが、私もこれなくなると思っていたら、事務方が必死に折衝して、24年度は何とか大丈夫そうです。県も古川知事がそもそもICTを一生懸命されていますので、佐賀県の新しい公共の場づくりのためのモデル事業、これ500万円、これも採択決定をしています。500万円は採択決定しています。

そして、緊急雇用創出基金事業については、一たんだめ出しされたんですね。だめ出しされても、これは絶対必要だろうということで、今申請をしています。ということで、平成24年度は財源の確保が、これは多分大丈夫だと思いますので、確保できて、寺子屋事業というのは今まで以上に推進をしていきたい。

先ほど上田議員からもいみじくもありましたように、2つ論点があるんですね。これはスマートフォンの活用を進めるということになると、さすがだと思いました。ドコモ、auさん、ソフトバンクさんのお力をかりていこうということを思っています。

そのICTの寺子屋の中にそういった方々が、余り自分とこばかり宣伝されては困るわけですね。ですので、そういう一般的にこういうふうに使えますとか、こういったことが必要ですとかというのをハイブリッドでなるように取り入れていく。これは寺子屋教室にも我々のほうから補助金を交付する権者でもありますので、それはお願いをしたいということを思っています。

それともう1つが、ICT寺子屋教室は非常によくやっています。（パネルを示す）これは動きませんので、これが寺子屋風景の、これね、ことしの7月30日に暑中見舞いの作成で教えているんですね。これごらんになればわかるように、もう子どもたちから、後ろのほうは子どもたちですよ、前のほうは年配の方々というふうにして、老若男女の方々が集って教えておられるといったことで、今は補助金の関係でいけるんですけども、行く行くはこれ一人立ちしていただくというふうにして、だから、収益事業、NPOなんですね、ちょっと制限はかかりますけれども、収益事業とその無料の事業というふうに分けて、しっかり一人立ちしていくように我々としても応援をしていきたいなというふうに思っています。

本当によくやっていますので、ぜひこれ多くの方々がごらんになっておられると思いますので、武雄市のICT寺子屋にぜひお問い合わせをしていただければと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

その携帯をずっと、携帯、スマートフォンの世界をずっと充実させていく上でいけばですよ、現在のホームページがスマートフォンだったら見れるわけですよ、武雄市のホームページも。スマートフォンはもうもちろん見れます、ブログでもホームページでも何でも見れますね。携帯電話では見れんわけですよ。こいを見れるごとできんものかなと思ったんですけど、そこら辺、ぜひちょっと答弁をお願いしたいと思いますけど。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**



あのですね、機種によってですね、今の例えば折り畳み携帯ですよ、スマートフォンと違う折り畳み携帯の機種によって見れる見れないというふうにありますので、これはちょっと携帯各社にちょっと私からも申し上げたいというふうに思います。幸いにして、ドコモも、特にソフトバンクはそうなんですけど、上層部ともう直結していますので、それは私のほうから申し上げたいというふうに思います。

ですので、そういう意味でいうと、もちろん我々の努力もあるんですけど、これは携帯電話、スマートフォンを含めてそうなんですけれども、やっぱり通信事業者の責任が大きいんですよ。それはきちんと自覚をしてほしいなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。機種によって見れる見れないがあるみたいですけど、これもまた機種が多過ぎて規格もばらばらしかですもんね。そいけんが、そこら辺が何とかならんものかなと思うごと、本当にもうおっしゃるとおりです。

で、るるいろいろ御説明をしてきましたけど、情報、インフォメーションですね、インフォメーションだけを見た場合は、やはりツイッター、フェイスブックというようなソーシャルメディアに代表されるようなデジタル情報ですね、それとまた別で、逆に言えば武雄市報とかのアナログの情報があると思うんですよ。デジタルの有効性というのは、もう瞬時にしゅんな情報を送れるから本当にいいものとだなと思いますけど、先ほど話をしていますとおり、なかなか全世帯にというようなのが届くことがなかなかできないというところもあります。

一方、市報であるようなアナログの情報としては、いち早くしゅんの情報をというわけにはいきませんが、全世帯に配布をしてというような形ですね、なかなか、要はここですよ、この部分を埋めていこう、この部分を埋めていこうというところがアナログの情報だと思うわけですよ。ということから考えればですね、もう本当にデジタルがこれからますますIT化が進んでいけると。アナログの情報もやはりその分を充実させていかないと情報格差が生まれるんじゃないかなと私はちょっと危惧しているわけですよ。そこら辺、デジタルの情報が進むのとアナログの情報が進むの、いみじくも市長は答弁の中でおっしゃっていました。商工会議所さんにもF&B良品の説明をして、市報でも通じて広く広報したいというようなことをおっしゃっていました。まさに全世帯に届けようということであれば、やっぱりそれしかないですよ。だから、そこら辺のデジタルとアナログの情報の違いを市長はどういうふうに認識されているか御答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

これは以前からも申し上げますとおり、アナログが基本です。もうアナログが基本中の基本。ですので、デジタルは選択肢をふやすというものでしかすぎません。アナログが基本ないと、そのデジタルで出す情報もアナログんとば出しよっとですよ。そいけんが、アナログがしっかりしとかんぎんたですね、これはやっぱり市民の納得は得られません。ですので、デジタルはデジタルで、これ一生懸命やります、これ時代の趨勢もありますのでやりますけれども、さらにアナログもしっかりやります。ですので、市報も私が着任したときと今とじゃ、もう抜本的に変わってわけですね、市報も。これ見てもらえばわかりますとおり、最初合併以前の市報というのは、もう無味乾燥ですよ、無味乾燥。もうお知らせがこうあって、それだけだったんですけど、今職員のね、同意とるのは最初大変だったんですけども、顔写真を入れて、だんだん笑顔のふえていきよっですもんね。とかね。それと、あと言葉遣いももうあんまい難しか言葉ば使わんごとて、私とか中学生がわかるようなのを使ってくれということで、物すごく言葉遣いも変えています。そして表紙も抜本的に変えています。やっぱり表紙に魅力がなかりですよ、中までもう見んされんですもんね。ですので、そういったことでかなり変えて、それはよく職員もこたえてよくやってくれています。もちろん課題はありますけどね。

ですので、そういうことでアナログはしっかりやっていきます。その上で選択肢をふやすという意味と、もう1つは、時代の趨勢ということもありますので、特にデジタルの場合のほうが市外に広げやすかとですね。フェイスブックの1,100万人というのも武雄市人口5万人ですからね。ですので、デジタルは外に向けて、アナログはしっかり中で、基本はしっかり守っていきたいというふうに思っております。

## ○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

## ○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。本当おっしゃるとおりです。

そこで、やっぱり振り返ってみると、武雄市の最高決定機関はやはりこの場だと思わすよね。この議会の場だと思わすわけですよ。

現在、県内の10市を見渡しても、武雄市議会て物すごく注目度も高っかと思わすよね。物すごくよその自治体も注目をしとんさる。もう私もよその議会にずっといろいろ知り合いもできてきて、今度どがんやっただがんやっただ、ずっといろいろ情報はとられようとしております。そこら辺はいいんですけど、全国的にも議会基本条例というのが取りざたされているわけですよ。ただ、各自治体の内容はさまざまですけど、この基本条例をこれから取り組もうとされていることについては、いろいろよその自治体のあれを見ると、首長の反問権とか一問一答方式の導入とか、そこら辺をいろいろそれで条例化しよんさっわけですよ。

それからいえば、武雄市議会はもう、私お世話になってからずっと一問一答方式なんですよ。それが今さら基本条例とかを設定してそういうとに組みようとしよんさったり、議会の公開というような面から言えば、オープン化で、見える化というのも、よそはこれから組みようとしよんさつとこあつとですよ。それもうちはケーブルテレビにお世話になってずっと放映もしよるし、しまいには全国的にも先駆けてユースト配信まで始めとつわけでしょう。最初はユーチューブからやったですもんね。それからユーストリームに変わって、ずっと進化していきよつわけですよ。これをよその議会見や来よんさつわけですよ。基本条例をするためにとかですね。だから、武雄市は早くからいろんなことには組みんどのわけですよ。デジタル面でいけば。そこら辺は非常にあるんじゃないかなと思っています。もちろん浅い、深いというのは各自治体でもいろいろあるかと思えますけど。

そういう中で、残念ながら、さっき言いよんさつたアナログが基本というところで、県内10市見渡して、武雄市議会だけが議会だより、公式的な議会報告、議会だよりはなかわけですよ、アナログで。ユーストとかケーブルテレビはもちろん、ケーブルテレビはあれですけど、ユーストを配信してもネット環境がなからんぎ見れんわけですよ。パソコンなりスマートフォンがなければ、とてもじゃないですけど動画は見れません。そういうのを考えると、やはり武雄市の最高情報決定機関であるこの議会の情報というのはアナログでも発信する必要はあるんじゃないかなと思っていますけど、ここら辺について市長の見解をお願いします。

(発言する者あり)

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

一般的な情報発信という情報発信政策の観点から答えると、やはり私も、例えばブログとかフェイスブック、たまに啓新通信という、これはもう政務になりますけど、流していて、やっぱり一番喜ぶのは啓新通信ですもんね。ですので、それはやっぱりそうなんです。お名前は出しませんけど、議員さんたちでも個別に出されております。ひまわり通信だったりとか、いろんなもの出されておりますけれども、一番喜ばれるのはやっぱりそうです。ですので、そういった意味からすると、一般論で申し上げます。市民の皆様方からやっぱり選択肢が、あ、あの人は、栄八さんはがん言いよんさつですもんね、だけど議会はこう言いよんさつですもんね、樋渡さんはこう言いよんさつですもんねということで、あるいは佐賀新聞はこう言ってますもんねということで、選択肢が広がるという意味では、これは非常に私は望まれるものだと思っております。もとより私は議会のことに対して物を言う立場ではありません。ありませんので、一般論でお答えしますけれども、そういったことで、うそばっかり書いてある通信とかの信用度がやっぱりそれでいろんな見ることによって大分落ちてくるというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私も一人の議員であるのと同時に一市民でありまして、市長もその一市民だと思います。そこら辺ですね、やはり情報、アナログの情報なんか特に私は感じるんですけど、やっぱり最後に見たのを一番信用したくなる人間の特性とかもあるんじゃないかなと思うわけですよ、このタイムラグがですね。そこら辺でちょっと議会として公式に、この人の考えはこうだ、この人の考えはこうだというのは、やはりそこでテーブルと一緒に、同じタイミングで乗せて、皆さんが情報リテラシーを磨くというか、精査をする部分をやっていく必要があるんじゃないかなと思ひまして、ちょっとこういう質問をさせていただきました。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。